

参考消息 (新 39 号・20171010)

## 日中の経済と心理的關係：「差」は縮まるか

日本も中国もこの 10 月下旬、未来を占う選挙を控えている。中国共産党第 19 回大会で習近平氏の「核心」の地位は揺るぎない。マスコミは王岐山や陳敏爾などほかの人事に目を凝らしているが、自分はそれより、習近平総書記は 2020 年以降の長期戦略、ビジョンをどう打ち出すかに特に関心がある。また、日本の選挙の結果が日中関係の行方にどのような新しい方程式をもたらすかも注目している。

新参考消息はこの数号、米中関係、北朝鮮問題など政治・外交のテーマに集中したが、その間、中国経済、日中経済関係に関する面白い記事を相当ため込んだ。この号は経済分野の記事を中心に紹介し、日中協力の新しいあり方を一緒に考えたい。

### 1、日中間の格差は

日本に長く暮らし、中国の「所得格差」、「経済失速」、「バブル崩壊」、といった話に聞き慣れ、それに比べ、日本社会に問題があるものの、「安倍景気、2017 年 9 月で戦後 2 番目 いざなぎ景気超えが確実」と伝えられている。そこへ数日前、中国の 7 億人以上が使う「微信」(WeChat) で転送された下記の記事(初出は今年 5 月の『財経』サイト)を読んで目を疑った。

#### ① 財経頭條 170521 寧南山：2017 年，日本有哪些地方落後中国？

<http://cj.sina.com.cn/article/detail/1909253791/257519?cre=financepage&mod=f&loc=5&r=9&doct=0&rfunc=100>

それによると、

- 1、 中国の (13.8 億人) **一人当たり** の高速道路 (全長 13 万キロ、2016 年末) のキロ数は日本 (1.27 億人の 8100 キロ) を 30% 上回った。
- 2、 日本の 12 都市の地下鉄全長が 800 キロであるのに対し、中国は 2015 年だけで 750 キロの地下鉄を新規開通した。(10 月 9 日付報道によると、上海の地下鉄だけで 2020 年まで運行キロ数が 800 キロを超える見通し)
- 3、 全世界のインターネット会社の Big20 のうち、米国は 12、中国は 7、日本は 1。
- 4、 雲計算 (クラウドコンピューティング) の世界レベルの大手会社に、中国のアリババは米国の IBM、グーグルと Big3 に並び、ほかに網易、百度、騰訊、華為も急迫しているが、日本は 1 社もない。

- 5、 アメリカ人工知能学会 (AAAI) のこの 3 年間の国際フォーラムで発表した成果は米国 326 項 (48.4%)、中国は 138 項 (20.5%)。日本は 8 位の 20 項 (3%)。
- 6、 スマホ、家電などの民生用分野は言うまでもないが、ハイテク兵器、海洋工程設備、量子コンピューター、宇宙開発など多くのハイテク分野でも中国は日本をはるかにリードしている。文章は最後に、「全世界で今、毎年増加する富の 6 割は米中両国に集中している」とし、「ほかの国は全力を集中して頑張らないと米中との差は広がるだけ」と締めくくった。

深圳在住の同作者は 10 月 1 日付の香港「鳳凰 (フェニックス) 財經」サイトに、今日の世界における中国の競争力について横の比較を行っている。中国語の読める方にだけ、じっくり読んでいただこう。

② 鳳凰財經 171001 中国競争力到底有多強？我們來比比啊！

<https://weiwaku.net/d/102919889>

欧米学者による「中国崛起」の原因分析を紹介した著書『偉大的中国工業革命——“發展政治經濟学”一般原理批判綱要』(原著名“The Making of an Economic Superpower -Unlocking China’s Secret of Rapid Industrialization”) (著者はFRB(連邦準備理事会)にも長年勤めた中国系学者)が清華大学出版社で 2016 年 6 月翻訳出版された。

③ 觀察者網 160604 文一：中国為何超越 因為中国找到了工業革命的“秘訣”

[http://www.guancha.cn/WenYi2/2016\\_06\\_04\\_362845\\_s.shtml](http://www.guancha.cn/WenYi2/2016_06_04_362845_s.shtml)

単行本の PDF 版は以下のサイトをご参照。

④ 偉大的中国工業革命 - 清華大学經濟管理学院

[http://www.sem.tsinghua.edu.cn/semcms.com/www/upload/article/image/2016\\_1/2\\_22/slq71kxckz2x.pdf](http://www.sem.tsinghua.edu.cn/semcms.com/www/upload/article/image/2016_1/2_22/slq71kxckz2x.pdf)

要旨：1、中国の台頭はロングスパンの過程。個々の問題と全般的な上昇気流を区別して見るべき。米国も 100 年余りの間、15 回の深刻な金融危機を経て世界一に上り詰めた。

美国在整個 19 世紀崛起的過程中發生過 15 次嚴重的金融危機和一次長達四年的内戰,而且在成功追上英国並成為世界第一制造業強国之後,美国經濟還在 1907 年和 1930 年兩次處於崩潰的邊緣。但是美国不僅沒有崩潰,而且還在整個 20 世紀主宰和引領了全世界在各個領域的發展。

2、この 35 年間、中国が「歴史的超越」を遂げたのは、工業革命の秘訣を見つけ、その潮流にうまく乗ったためだ。

短短 35 年,中国是怎麼做到這種歷史性超越的? 原因很簡單: 中国終於找到了工業

革命的“秘訣”。

3、中国工業革命の7つの特徴（省略）

4、經濟勃興の段階は必ずしも自由・民主化とセットではない。かつての大英帝国は強権国家だったし、今日の世界に一応民主化しているが經濟が停滞中の国はざらにある。

哈佛大学經濟史学家貝克爾特（Sven Beckert, 2014）指出：“當年的大英帝国，作為第一個開啟工業化的国家，並非是一個後來人們所描繪的自由、開明和廉政的国家。相反，它是一個軍事開銷龐大的、總是處於戰爭狀態的、奉行干涉政策的、高稅收的、債臺高築的、極端貿易保護主義的官僚集團和強権国家。它也絕對不是一個民主的国家。”（參見作者《偉大的中国工業革命》一書第150頁）

其次，目前世界上有大量民主国家處於經濟增長停滯和政府停擺的厄運裏：阿富汗、埃及、伊朗、利比亞、巴基斯坦、泰国、突尼斯、烏克蘭等等，此類国家不勝枚舉。再次，有很多施行榨取性制度的国家，其經濟卻頗為強大，例如二戰前的德国和俄国。

5、今日の中国は米国より4倍大きい国内市場と經濟的潜在力をもってグローバル發展戰略を展開中。「一帶一路」戰略はイデオロギー、宗教、言語、政治体制などを超越した底力がある。

如今，中国似乎接過了美国手中的旗幟並把它發揚光大，開啟著未來全球新的貿易格局：中国正在以比美国大四倍的国内市場和經濟潛力尋求雙贏的全球發展戰略、進行全球基礎設施建設（比如“一帶一路”），這一戰略超越了意識形態、宗教信仰、語言文化、政治制度和民族界限。

日本以外の先進国の学者とマスコミによる中国經濟と技術の競争力に対する高い評価は特に今年に入って目立っている。そのいくつかを紹介する。

### ⑤ **Daily Report: An Industry's Center of Influence Shifts/科技業的影響力中心轉向中国？ - NY Times 紐約時報 170531**（中英文对照）

<https://cn.nytimes.com/technology/20170531/daily-report-an-industrys-center-of-influence-shifts/dual/>

自動運転やAIの開発に関してシリコンバレーに目が行きがちだが、一部のイノベティブな開発の中心は中国に移っている。

米国は絶対に間違ったタイミングに、内向きに転じている。

### ⑥ **阿裏巴巴收入加速增長，表明中国消費實力強勁 - WSJ/華爾街日報 170519**

<http://cn.wsj.com/gb/20170519/tec081653.asp>

**英文: Alibaba's Revenue Growth Accelerates**

<https://www.wsj.com/articles/alibabas-revenue-growth-accelerates-1495107551>

第 1 四半期の中国の小売りは 26%の伸びを記録。アリババの株価と純利益の 5 割超の伸びから中国の勢いが分かる。

⑦ **China Looks to Capitalize on Clean Energy as U.S. Retreats/彎道超車, 中国志在主導未來清潔能源產業 - NY Times 紐約時報中文網 170606**

<https://cn.nytimes.com/business/20170606/china-looks-to-capitalize-on-clean-energy-as-us-retreats/dual/>

日本のマスコミでは今なお、中国が 2 年後に電気自動車の製造割合を発表したのは「日本狙い撃ち」と書かれているが、もっともっと大きいスパンで見るべきだ。中国はクリーンエネルギー産業の世界制覇を目指している。

⑧ **Inside the Ring\_ China supercomputers threaten U.S. security - Washington Times 170503**

<http://www.washingtontimes.com/news/2017/may/3/china-supercomputers-threaten-us-security/>

中文による同記事の紹介：

美媒：中国超算是美安全威脅 讓美武器不再先進\_搜狐軍事\_搜狐網 170507

[http://www.sohu.com/a/138822203\\_262340](http://www.sohu.com/a/138822203_262340)

中国のスーパーコンピューター開発の躍進はすでに米国の安全保障に脅威を与えるレベルに来ている。

以下のいくつかの諸外国の主要メディアの記事は中国語の紹介記事から引用したが、時間の関係で原文は確認していない。

⑨ **美国石英網「中国軍事科技威脅不再是笑談」(中国のハイテク軍事技術はもはや嘲笑の対象ではなく、真の脅威になった)、在米中文サイト「多維網」 170505**

<http://global.dwnews.com/news/2017-05-05/59813804.html>

かつて中国の軍事技術や装備がコピー製品、一世代遅れと嘲笑されていたが、今日の中国軍事技術の躍進に米国も直視せよ、と警鐘を鳴らしたもの。

⑩ **韓国 KBS1 「韓国教授稱中国 90 後：很可怕，創造的未來更可怕！(韓国教授が見た中国の「90 後」=1990 年以後生まれの世代：もっと恐ろしい)、新浪「財經頭條」サイト 170527**

<http://cj.sina.com.cn/article/detail/1708922835/265737>

韓国 KBS テレビで韓国人教授は写真や映像を使い、中国の若い世代の「恐ろしさ」を語っている。

ほかに二つの関連記事も挙げておく。

⑪ 瑞銀發布全球樓市泡沫指數，多倫多和溫哥華分列第一第四 - 華爾街日報  
170929

<http://cn.wsj.com/gb/20170929/biz165413.asp>

スイス UBS 銀行がこの 9 月に発表した全世界の「バブル都市」のランキングに、カナダ、北欧、米国などの複数の都市が前列に並ぶが、中国のはかなり後ろの方にある。

⑫ 財經頭條 170521 厲以寧：中国正在發生的八個巨大變化

<http://cj.sina.com.cn/article/detail/5305869579/257312?column=licai&ch=9>

自分が最も尊敬する中国の経済学者の一人、厲以寧先生は、「中国の経済と社会で起きている八つの構造的変化」を分析した。客観的に中国経済の現状と行方を見るには、これを読まなければならない。

## 2、日本の中国を見る目に変化の兆し

世界的な工業、技術大国である日本はもちろん、今でも一部の分野で世界をリードしている。李克強首相はじめ中国社会も日本の「匠人」の精神に学ぼうと呼びかけている。「匠」の国の日本はなぜ多くの産業分野で中国に追い抜かれたのか。中国側の分析にも耳を傾けてみよう。

① 財經頭條 171005 劉承元：有這麼多匠人，為何日本這些大企業還是要崩盤了？（『企業管理』誌論文の抜粋）

<http://cj.sina.com.cn/article/detail/2160994315/427740?cre=tianyi&mod=wpageloc=16&r=32&doct=0&rfunc=0&tj=none&tr=32>

同論文は日本企業の「匠」と継承の精神を高く評価したうえで、それが大手企業の発展と競争に結び付いていないことを指摘。6年間の日本留学、日系企業に長年勤務した経験を踏まえて作者は、高福祉社会、コスト高などの背景以外に企業レベルにおける4つの構造的問題を指摘した。

- 1、戦略能力の欠如
- 2、21世紀に入って企業経営者の「責任感」の低下
- 3、自信喪失
- 4、決断・開発の「スピード」感のなさ

② 新華網 170425 日本失落的二十年与階層的固化

<http://sike.news.cn/statics/sike/posts/2017/04/219517657.html>

要旨：1、「失われた 20 年」がもたらした影響として日本社会に「一億総中流」を再建する意欲を失わせたこと、

2、政治家の世襲、貧困の拡大など階級と階層の固定化が進んだ。

3、教育は中産階級を拡大する機能を失いかけている。

自分が使うメールアドレスに、多くのメルマガが毎日送られてくる。その大半は今も、「日本は全然落ちていない、自信を持って」「中国は間もなく崩壊、いやすでに崩壊中」といった内容だ。これらの媒体は結局、中国に対する歪んだイメージを作り、日本の対応と奮起を遅らせ、自分の首を絞めるようなものだ。

もっとも近頃、変化が少しずつ現れているように感じられる。大手新聞はまず、評論抜きで一部の事実を伝えた。

③ 日本経済新聞 170613 世界の科学技術 米中 2 強時代 中国、論文 4 分野で首位

<https://www.nikkei.com/article/DGKKZ017597480T10C17A6MM8000/>

④ 日本経済新聞 161209AI 研究 米中 2 強 学会発表数で突出、共同研究も盛ん 企業、開発に生かす 日本勢、出遅れ目立つ

一部の現場調査を重視する研究者も声を上げている。瀬口氏はここ数年、その姿勢を貫いているように感じられる。

⑤ 瀬口清之：中国で突然生まれる超巨大市場を見逃すな CIGS170619

[https://www.nikkei.com/article/DGKKASGG09HOM\\_Z01C16A2MM0000/](https://www.nikkei.com/article/DGKKASGG09HOM_Z01C16A2MM0000/)

8 月末に開かれた中国社会科学院主催の「中日国交正常化 45 周年記念国際学術シンポジウム」で、丸紅の中国法人・丸紅（中国）有限公司の鈴木貴元・経済調査チーム総監は発表の中で次のように述べた。

⑥ 人民網日本語版 170829 日本企業は中国企業に追い抜かれる ハイテクでは補完

<http://j.people.com.cn/n3/2017/0829/c94476-9261373.html>

「まず、現在の日中協力は以前に比べて、大きく変わった。日中の直接投資の動きをみると、日本は以前は主に製造業分野の対中投資を行っていたが現在は新たな対中投資ブームが起きている。」「ここ数年、中国の多くの企業が発展して規模を拡大する様子を見てきた。すでに日本企業に並び立つとともに、毎年 30%を超える増加率を達成し、収益も数倍増加した。中国企業の伸びはますます加速し、日本企業はいずれ中国企業に追い抜かれる見込みだが、日本企業はこのことをしっかり認識していない」。

同氏のシンポジウム発表論文の中国語バージョンはさらに詳しく、自身の体験を踏まえて、今の日本社会ないし企業も中国の発展ぶりを理解していないことを認めている。

#### ⑦ 日中経済合作發生重大轉變帶來的思考 - 人民中国 171005

<https://mp.weixin.qq.com/s/Bo7lQ3p897OSChzmlE-FQ>

我在丸紅工作，幾年前面對中国企業時，我們還擁有自己是大企業的優越感。但是現在，我們看到中国很多企業的規模已經發展到和日本企業旗鼓相當了，而且它們每年以超過 30% 的增長率持續發展，營業額在幾年間翻了好幾倍，這種勢頭不可抵擋。曾經日本企業普遍覺得，中国企業怎麼追也難和我們同日而語，而目前日本企業成長速度越來越慢，中国企業卻越來越快，有朝一日就會被中国企業所超越。對於這一點，日本企業中已經開始有人認識到了。

我在企業當中從事調查工作，更加感覺到日本人對中国的現狀一定要有正確的認識。但現實中兩國的服務業、IT 業做得怎麼樣，這方面信息彼此了解得並不是很好。雖然中国的摩拜共享單車已經出現在日本街頭，經營網絡購物的阿裏巴巴在日本也有業務，但中国經濟究竟發展到什麼程度，很多日本人並不十分了解。所以就產生出中国人在日本出差時拿出智能手機打電話，讓日本人覺得很吃驚的奇怪現象。因此，日本人一定要常到中国去看一看中国實際的發展情況。同樣，中国人也需要來日本親身感受日本的真實現狀。雙方都需要努力去彌補彼此在相互認識上的差距，只有這樣中日企業才能在新的經濟潮流中找到攜手合作的最佳模式，贏得共同發展的局面。

日本企業が中国に「出戻り」し、中国での失敗を相手のせいにしてしないで自らの問題を真剣に考える記事も出ている。

大連の目覚ましい変化に驚き、反省と再進出を示す動きを紹介した記事。

#### ⑧ まぐまぐニュース！170812 なぜ日系企業は結局、中国・大連に「出戻り」したがるのか？

[http://www.mag2.com/p/news/260300?utm\\_medium=email&utm\\_source=mag\\_W000000015\\_mon&utm\\_campaign=mag\\_9999\\_0904&l=kuf03b6478](http://www.mag2.com/p/news/260300?utm_medium=email&utm_source=mag_W000000015_mon&utm_campaign=mag_9999_0904&l=kuf03b6478)

中国でのビジネスの失敗は日本企業家自身が甘く考え、現地に合ったような努力を怠った部分も大きいのではないかと指摘する記事。自らの体験を踏まえて 8 項目の反省材料を列挙した。

#### ⑨ まぐまぐニュース！170816：中国ビジネスでまんまと失敗する、日本人経営者 8 つの特徴

[http://www.mag2.com/p/news/260668?utm\\_medium=email&utm\\_source=mag\\_W000000015\\_thu&utm\\_campaign=mag\\_9999\\_0824&l=kuf03b6478](http://www.mag2.com/p/news/260668?utm_medium=email&utm_source=mag_W000000015_thu&utm_campaign=mag_9999_0824&l=kuf03b6478)

元読売新聞中国総局長の加藤隆則氏が書いた、中国への無理解を反省するエッセイ。

⑩ アゴラ 170605-0610 加藤隆則：現地を知らずに中国を語る日本人たちにひと言

<http://agora-web.jp/archives/2026411-2.html>

<http://agora-web.jp/archives/2026429.html>

<http://agora-web.jp/archives/2026445.html>

その中でも中国の経済、社会について常に独自の調査と視点で語る叶芳和氏の分析は深いものがある。

⑪ みんかぶマガジン 170522 叶芳和：どうしたニッポン！再論 —中国産業技術の高度化、日本の沈没—

<http://money.minkabu.jp/61410>

結論の部分は次のように書かれている。

中国の産業技術論については、モジュール型イノベーションの視点が必要というのが筆者の持論である。しかし、90年代から2000年代の初め、日本では「摺り合わせ」技術論が一世を風靡していた（藤本隆宏東大教授の提唱）。（中略）この「摺り合わせ」技術論の立場に立つと、日本はもの造りが得意で、国際競争力は強いということになる。逆に、中国の産業は低賃金依存だけであって、技術力を要する製品では国際競争力をもたないという帰結になる。（中略）

中国は「世界の工場」に発展した。結局は、各分野でモジュール型イノベーションが進行したからである。中国の技術水準が上がったというより、イノベーションの方向が中国に有利に働いたというべきか。摺り合わせ技術では日本のほうが上であろう。しかし、世界はモジュール型技術の方向に動いたのである。

もう一つのポイントは、賃金上昇だ。中国は2005年頃に「ルイス転換点」を通過したという見方が有力だ。労働市場は賃金上昇が激しい。それを背景に、ロボット化も進行中だ。ロボット化に伴い、製品の品質も向上する。高い賃金と低い技術の組み合わせは、この世の中にない。

また、自動車、航空機など、部品点数が多く、高度技術かつ裾野の広い産業の発達の効果が期待できる。中国は、自動車生産で世界一になった。さらに部品点数の多い航空機も量産化の時代が近い。中国はこれらの先端産業に引っ張られて、製造技術の高度化が進んでいくであろう。

日本は、GDPが数倍も大きくなった巨大経済の国というだけでなく、技術的にも高度化していく国が、自国の隣りに誕生していくことを考えておく必要がある。日本の政治、経済、外交の進路を考える際の不可欠な視点であろう。それなくば、



日本は世界の中で落ちこぼれていく。中国に対する見方、日本の中国論は転換が必要なのではないか。「嫌中」「反中」だけでは、虚勢を張っても、世界の孤児になりかねない。

日本企業の対外進出の相次ぐ失敗に、「日本病」に問題点を見つける分析も出ている。

⑫ マネーボイス 170321 中島聡:東芝を破綻寸前に追い込んだ「日本の病」 米  
国に足元を見られる理由とは？

<http://www.mag2.com/p/money/161341?l=kuf03b6478>

作者は、今回の東芝問題は「日本式意思決定プロセス」が原因となった可能性を指摘。日本人であれば「一旦社に持ち帰って検討します」という言葉に何の違和感も覚えないが、海外でその常識は通じない。この記事では、東芝側の担当者が追い込まれたギリギリの心理状態についても分析した。

更に高野孟氏は『ニューズウィーク』8月15・22日合併号のカバー・ストーリー「日本の未来予想図／人口減少 2050年の日本」を引用しつつ、日本経済のみならず、外交にも自己改革を訴えている。

⑬ まぐまぐニュース！170822 高野孟：日本はまもなく「中国の周辺国」に…  
米メディアが突きつける未来予想図

<http://www.mag2.com/p/news/261248>

一部の内容の引用：

ピーク時に日本のGDPは米国の70%だったのが、今では4分の1となった。付け加えれば、日本は2010年に中国に追い抜かれて、今では**中国の44%の経済規模**である。中国が大国で日本が中等国だというのは、将来の話ではなく、すでに現実なのだということに気づかなければならない。

ここは大事なところである。「92年から25年間ほとんど経済成長していない」というのが日本経済についての基本認識でなければならず、ということは、成長を求めること自体が無理で**成熟をこそ目指さなければならない**。そうすると、獣医学部新設とかカジノ開設とかの「成長」戦略なるものが全く見当違いであるということがすぐに分かるのである。

対外政策もこれに連動していて、人口学的に中国の圧倒的有利が蘇って日本は中等国として生きるしかなくなっているというのに、米国という20世紀の旧超大国にしがみついて、米国を盟主として日本がそのアジア支店長のようになって中国の拡張と対決しようという「中国包囲網」の外交・安保政策を追求するというのは、**歴史の流れに対して抵抗勢力化していること**であって、これでは出口を失う。その根底にあるのは、一言でいって脱亜論で、日本はアジアで唯一、米国に認められた

先進国であり、最も信頼された同盟国であって、米国と日本が組めば中国ごときの盲動など力で抑え込むことができるという幻覚である。

日本マスコミに蔓延した「中国崩壊論」の原因と心理を分析した以下の記事は一読する価値がある。

⑭ **Record China170919**「中国崩壊論」は暴論だった！＝10年後には名実ともに米国抜き、世界一に一米欧アジアを“吸引”、勢い止まらず

<http://www.recordchina.co.jp/b190899-s136-c20.html>

この中で日本のジャーナリスト自身による反省が紹介されている。

隣国のパワーによって日本経済が救われている現実を直視すると、「嫌中」本が、いかに一方的で浅薄か分かる。

ある月刊誌編集者は「読者の多くは中国の急成長ぶりに脅威を抱き、中国のマイナス情報を求めているので、勢いアラ探的な記事が多くなる」と釈明した。ある週刊誌の編集幹部も「中国の悪い話を大げさに書くと、確実に部数がはける」と打ち明ける。出版・新聞不況の中で「嫌中」論は「貴重な金鉱脈」として期待されているらしい。

新聞情報でも実態は正確には伝えられていない。「日中対立を超える『発信力』—中国報道最前線 総局長・特派員たちの声」（段躍中・編、日本僑報社刊）によると、「反日デモや大気汚染など注目されるテーマでは衝撃的な場面や深刻な内容について詳しく報じている。だが、ストレートなニュースにならない等身大の中国、そして中国人の姿を伝える機会は非常に限られている」（大手新聞社元特派員）という。

全国紙記者は「中国崩壊論」がこの20年近く日本のメディアに浮上し続けている現実を紹介した上で、こう著述する。「こうした中国崩壊論はどうしてたびたび浮上してくるのか。恐らく『中国が崩壊したら嬉しい』という日本国民のニーズがあるからではないか。そんな記事や本を読みたいという欲求が日本人の潜在意識の中にあるのかもしれない」。

### 3、日中経済協力の新しい可能性

ではこれからの日中協力はどう進めるべきか。前出の8月北京シンポジウムで中国の外交学院副院長江瑞平教授は、「中日企業は合すれば則ち共に利し、争えば共に損する」と語った。

① **Record China170831** 日中企業は協力すれば共に利益を得、争えば共に損をする

<http://www.recordchina.co.jp/b188922-s10-c20.html>

この中で同教授は2点を強調した。

1、日中企業の協力の現状認識：「新しい段階に入っている。中日企業は本当の意味ではほぼ平等な交流と協力を行うようになり始めたといえる。中国の経済力が日増しに向上し、世界企業500社番付に占める中国企業の数も日本を抜いており、すでに多くの中国企業が日本企業との協力において平等な協力を実現させている。しかし全体的に見ると、中国企業のブランド影響力、技術の成熟度、経営・管理水準など一連の重要な面において、日本企業と比較するとまだ大きな差があることは重視せざるを得ない」と指摘した。

2、日本企業は対中進出・協力において持つべき四つの視点：

(1) 日中企業は合すれば則ち共に利し、争えば共に損する。「一帯一路」の建設に積極的に参与し、中国の発展という高速列車に便乗すべき点。

(2) 中国で増加と成長を続ける自由貿易区は、体制・制度・政策面で、日本企業の対中投資により有利な条件を整えている点。

(3) トランプ大統領就任後、米国は対外経済戦略の根本的な調整を行っている。日中は協力しこれに対応する必要がある点。

(4) 日中韓首脳会議の開催に伴い、日中韓自由貿易協定（FTA）交渉がより積極的に推進されるかは、日中企業の協力に非常に高い将来性があるかを示すことになる点。

JSTの沖村元理事長の次のインタビュー記事も、中国との付き合い方を考える上で示唆的だ。

## ② Nippon.com170914 沖村憲樹：日中の人的交流を通じて両国のサイエンスの発展に貢献

[http://www.nippon.com/ja/people/e00119/?utm\\_source=nippon.com+%E3%83%8B%E3%83%A5%E3%83%BC%E3%82%B9%E3%83%AC%E3%82%BF%E3%83%BC&utm\\_campaign=42b3df48f9-RSS\\_EMAIL\\_CAMPAIGN+%5BJP%5D&utm\\_medium=email&utm\\_term=0\\_70ed3bb07f-42b3df48f9-194512965](http://www.nippon.com/ja/people/e00119/?utm_source=nippon.com+%E3%83%8B%E3%83%A5%E3%83%BC%E3%82%B9%E3%83%AC%E3%82%BF%E3%83%BC&utm_campaign=42b3df48f9-RSS_EMAIL_CAMPAIGN+%5BJP%5D&utm_medium=email&utm_term=0_70ed3bb07f-42b3df48f9-194512965)

将来、中国は経済的、軍事的にさらに強くなるでしょうし、アジアの国々も発展していきます。それに対して日本のプレゼンスが小さくなることを考えると、中国をはじめとしたアジアの国々との共生は不可欠です。そのために最も有効なことは、人と人の交流です。人的なつながりさえあれば、たとえ国家間に軋轢（あつれき）が生じたとしても緩衝材になってくれます。

私はグローバル化こそがイノベーションの一番の近道だと思っています。アジアの優秀な研究者が多数日本に来て、混ざり合ってレベルアップすることはお互いにメリットがあります。さくらサイエンスプランは、アジア諸国のためであると同時に、日本のためにもなるのです。

退任後もマクロの視点で日中の相互理解と共通の努力を語り続ける数少ない「チャイナスクール」の宮本雄二元駐中国大使はこの6月、上海で行われた国際シンポジウムで「日中両国は相手のポジションを再確認し、互いに敬意を示そう」と提言した。この提言は中国で広く紹介された。

### ③ 澎湃新聞 170630 宮本雄二：中日關係應回歸的原點在哪里

[http://www.thepaper.cn/newsDetail\\_forward\\_1718495](http://www.thepaper.cn/newsDetail_forward_1718495)

2010年中国的經濟規模超越日本時，我就主張中日兩國的“相互定位”問題已作為兩國間的核心問題提上議事日程。換言之，兩國如何給對方國家定位非常重要。

日本有必要正視中国的影響力越來越強、話語權越來大的現實，在此基礎上構建日本的對華政策；而中国也有必要繼續正確地認識日本的重要性並制定對日政策。中日兩國都不要因排名次序發生變化，而感情用事地推行對外政策。

最根本的是要對對方國家、社會和國民抱有敬意。這一點在中日關係上特別重要。

宮本大使が『毎日新聞』の「經濟觀測」コラムに寄稿した以下のエッセイもとても示唆的だ。

### ④ 毎日新聞 170727 宮本雄二「中国市場を恐れるな」

このエッセイは長くないので、その大半を引用させていただく。

中国の安い労働力にひかれて多くの日本企業が中国に進出し、中国の“想定外”の現実に振り回され、かなりの数が撤退した。しかしその中国の“現実”そのものが、日々変化していることにどれだけの人が注目しているだろうか。最近、2度目の北京勤務を終えて帰国した友人は「北京で交通信号を無視して渡ろうとしているのは気がつけば自分だけだった」と語る。中国人のマナーも向上しているのだ。そして一昔前とは違い、中国のことを誰も話したがらないし強い関心も示さない日本社会の現状にも驚いていた。

だが中国經濟抜きの日本經濟の發展戰略など、そもそも存在しうるのだろうか。（中略）すでに日本の倍以上の規模を持つ中国經濟は、依然として6%を大きく超える成長を続けている。しかし「中国經濟はいつまで持つのか」という疑問も当然あるだろう。私の現場感覚は、最善のシナリオも最悪のシナリオもめったに現実のものとはならない、というものだ。普通は、その間を蛇行しながら進んでいく。そうであるならばさらに存在感を増し続ける中国市場から逃げるのではなく、そこで勝つことを考えてみたらどうだろう。

中国の巨大な変化は、情報化社会によって加速化されている。中国の国民は、ますます大量の情報を瞬時に獲得できるようになった。日本の消費者の要求は高いし、厳しい。それに鍛えられた日本企業が、賢くなった中国の消費者の要求に応えることに何の問題もないはずだ。中国のビジネスリーダーは米国に親近感を

覚え、消費者は日本に親しみを感じているのだ。中国市場で勝利の方程式を作る、今がチャンスだと私は思う。

最近、中国でも日中関係に関して反省と再認識を示す動きが現れている。最も権威ある日本研究誌『日本学刊』の編集部主任は、鄧小平氏の対日戦略思想を再認識して対日戦略を立て直そうと提言。2016年のシンポジウムでの発表内容だったが、最近改めて紹介されている。

⑤ 愛思想 170809 林昶：論鄧小平對日外交戰略思想與中日關係實踐

<http://www.aisixiang.com/data/105458.html>

終戦直後に八路軍（後の人民解放軍）に入隊した日本人女性（90代）を中国の古参将軍が見舞い、感謝の気持ちを表現したことに関する感動的なブログの記事。

⑥ 網易博客 170720 感恩之情七十載— 老將軍張中如看望日籍八路中村京子

<http://blog.163.com/jiangheping1@yeah/blog/static/120987947201562031851795/?from=groupmessage&isappinstalled=0>

中国革命に貢献した日本人の功績に関して10年前に書かれた紹介文は最近の中国の微信やネットで再び掲載されている。

⑦ 崑崙策 170813 我認識的四野日本老兵 萬余日籍解放軍歷史解密！

<http://www.kunlunce.cn/myfk/fl11111/2017-08-13/118243.html>

その中で1956年、周恩来首相が述べた、中国革命に協力した日本人への感謝の言葉が引用されている。

我們很感激一部分日本人，他們在解放戰爭時期，作為醫生、護士、技術員參加了解放戰爭，這些更增強了我們與日本人民締結友好關係的信心。日本的軍國主義確實是殘酷的，但協助我們的日本人民有很多。

この30年間、中国で広く歌われた多くの歌は実は日本の歌のリメイクであると細かく紹介した3年前の記事もこの10月に転載された。

⑧ 搜狐網 171002 那些年我們一起聽過的歌，原來都是翻唱日本的

[http://www.sohu.com/a/196030212\\_526514](http://www.sohu.com/a/196030212_526514)

近代以来、「和製漢語」が現代中国語に与えた影響は想像を超えるほど大きいものだと紹介した復旦大学教授の文章。

⑨ 日本詞語對當代中国漢語的影響之深，超乎想象 170426

<https://mp.weixin.qq.com/s/3rxyg8M9Ea8vcjxFJJltBQ>

今年の終戦記念日前後に、NHKは731部隊を、TBSは中国戦場に使う毒ガスの製造をそれぞれ暴露する番組を放送した。これは中国で好意的に紹介された。

⑩ 搜狐網 170818 繼勇敢的 NHK 之後，這位日本国民女神，也站出來揭露日軍暴行！

[http://www.sohu.com/a/165684545\\_161479](http://www.sohu.com/a/165684545_161479)

この中で紹介された、一般日本人のコメントも面白い。



kmokmos.. @kmokmos · 3時

「今年、テレビはなぜ、日本軍の加害責任に言及できたのか。支持率低下で安倍政権の求心力が弱まり、メディアへの圧力も一時ほどではなくなっている。権力が弱らないと、戦争の歴史的真相すら報道できない日本のマスコミの脆弱さの証明とも言える。」



NHKに続きTBSも日本軍の残虐行為を検証報道！ 綾瀬は...  
lite-ra.com

9月24日夜9時のゴールデンタイムに、フジテレビ地上波放送は、日中共同制作ノンフィクション番組「母として女として」を放送した。制作者はかつて「小さいな留学生」シリーズを制作した張麗玲さん。日中民間交流の小さな一コマだが、上海に乗り込んだ日本人女性の体験を通じて双方の気持ちが一步一步近づく、という日中間の相互理解のあり方を示唆したいい番組だと感動した。

実は最近、日本人女性と結婚したある中国人の自伝も中国のネットで広く伝わり、話題を呼んでいる。

⑪ 微信 170828 日本爸媽列了 12 條不嫁中国人的理由，身無分文的我如何把她娶回家

<https://mp.weixin.qq.com/s/WNZ3aRUUmPXdwGV6NNS6mw>

娘が帰国した中国人留学生と恋愛していることを知ったお父さんは12カ条の反対意見を書き残した。福建省にいる元留学生の親も大反対した。中国の親を説得してから彼は彼女の親に気持ちを訴える手紙を書き、更に日本に来て懇願した。半年後、彼女の親はついに許してくれて、福建省での結婚式にも飛んでいって参加した。中国人同士の結婚の場合、男性のほうは相当の財力がなければ結婚できないが、彼女はそれを一切考えず、「あなたは努力家（有上進心）」

と評価し、プロポーズを受け入れたが、多くの中国人はそれに羨望を隠さなかった。一方、妻の家で家族一緒にテレビを見る時、中国批判の番組になると岳父はさりげなくチャンネルを変えた。

自分の国際結婚もかつてそのような紆余曲折を経験したがゆえに、この文章に親近感を覚えた。日本と中国の間でも、出会いはどうであれ、このような真心を込めた交流を続けていけば、互いの気持ちが近づいてくるし、相手への気配り、思いやりも生まれてくるのではないかと思った。

終わり